

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号500253 1口500円にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
 ★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:500252 1口1000円～ にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
 ★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:500251 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。
 ★JOSO脱プラ基金は注文番号:500254 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。



News Letter

2022年11月3回号 発行:常総生協広報G



2022-23年度活動テーマ(案)「つくると食べるでつながろう ～私たちの地産地消～」

つくばみらい市から新しい生産者が加わりました。 「つくば自然農園」を紹介します。



◆つくば自然農園・坂本一信(かずのぶ)さん

1971年生まれ、大阪府出身。東北大学大学院工学研究科を卒業後、(財)発電設備技術検査協会に入社。以降専門的な研究と国際機関等での活動に従事(工学博士)。

2020年6月に、「未来ある子ども達に安全で美味しい食べ物を届けたい!」という思いから、農業に転身。現在、茨城県つくばみらい市及びつくば市にて約5ha(※1)畑で農薬無散布・無肥料で野菜を作っています。

◆つくば自然農園のこだわり

農薬・肥料不使用で子供が食べても安心できるよう農薬を一切使わず、土に住む微生物の力を借りて野菜を育てる「炭素循環農法」を取り入れています。こどもも安心して食べられる栄養価に富んだ美味しい野菜を作っています。また、体に有害といわれる「硝酸態窒素」の野菜中の含有率が極めて低いことも当農園の野菜の特徴です。



◆炭素循環型農法とは?

一般的な栽培では主な肥料はチッソですが、炭素循環農法では圃場の微生物を生かすためにチッソより炭素の施用が必要だとしています。きのご廃菌床やバーク堆肥、緑肥、雑草などを浅くすき込むだけで、その他の肥料は一切無し、それだけで虫も病気も寄らない極めて健康な作物が育つといえます。(※2)

(※1: 1haは100m×100mの大きさ、5haであれば500m×500m)

(※2: 農文協 ルーラル電子図書館 炭素循環型農法より抜粋)

	一般的な栽培 (慣行栽培)	炭素循環農法
野菜への栄養	化学肥料を野菜に吸収させる	地中にいる糸状菌(きのご菌)にエサを与えることで、それらの微生物がバクテリアと連携して野菜を育てる。きのご廃菌床、剪定チップ、竹チップ、もみ殻、落ち葉、雑草等の炭素の比率が高い資材をごく浅く土と混ぜる。

●生協基幹運営/地域活動・催し●	●提携・協同・連帯企画●
・11/5(土) 生協まつり ・11/12(土) 地産地消野菜チーム(清水農園 援農交流会) ・11/30(水) 定例理事会	・11/12(土) 甲状腺検診@柏(関東子ども健康調査支援基金) ・11/19(土) 「歴史を学ぼう～未来のために～」講座



左の写真から、カヤ、剪定チップ、えん麦、ソルゴーなど、「微生物(糸状菌)」のエサとなる炭素素材や緑肥をすき込みます。

◆糸状菌とは？

糸状菌は、空気が届く深さで呼吸をしており、炭素源（腐りにくいもの）をエサにして増えます。糸状菌が増えると、乳酸菌、納豆菌、放線菌、大腸菌などの真正細菌（バクテリア＝嫌気菌）が増えます。こうして、土壌中の微生物が豊かに整っていきます。菌の食物連鎖が起こり、その生態系の中では、有機体窒素（中心は炭素）が循環していく。その結果、上の方から発酵状態の土ができ、フカフカになっていきます。微生物が豊かになると、微生物の中にエンドファイト(※3)がいて、アミノ酸を根から野菜に供給してくれます。また、免疫機能も野菜に供給して病気や害虫から守ってくれる。つまり、野菜を健康に育ててくれます。

(※3)植物の体内に入り込み、共生的に生活している微生物（真菌や細菌）のことで、植物の耐虫性や成長に有用な物質を作る。植物の成長を早めたり、病気や虫から植物を守る効果があり、農薬や肥料に代わるものとして期待されている。

～坂本さんよりコメント～

農薬を使わず、地中に広く根を張って大地のミネラル等をしっかり吸収して力強く育った野菜は、エグ味のない野菜本来の栄養とうまみがぎゅっと詰まった味がします。今まで野菜が苦手だった子どものお母さんからも「子供が喜んで食べてくれた！」と好評を頂いています。たくさん子どもたちが野菜を好きになる手助けができればと思います。今後とも、よろしくお願いします！



11月3回注文番号 57 「つくば自然農園のさつまいも」 500g 270円(税込)

生産者にフォーカス！農薬無散布・無化学肥料の松永農園のレモン

11月3回のカatalog表紙で、松永農園のレモンを企画しています。常総生協が、由比の松永さんからレモンを頂くようになって30年以上が経ちました。親子二代、ずっと農薬に頼らない方法で柑橘を栽培し、現在は研究室で農業を学んだ子ども達が三代目としてお父さんと一緒に柑橘づくりを実践しています。

■古き良き”宿場”に果樹園あり！

無農薬レモンを栽培する松永さんの果樹園は、静岡県清水区由比町にあります。果樹園からは駿河湾が一望でき、温暖な海風がそよぎ、昔から柑橘栽培が盛んな地域でした。また、この地域は昔の東海道の宿場町「由比宿」。築300年近い住宅がいまだ街道に残り、宿場町の面影を残しています。



■地域が抱える問題と松永農園

「この地域では、私が一番若手になってしまった。今ではほとんどが70代、80代で…」と松永さん。昨今、柑橘栽培をはじめ農業そのものを継続すること自体が厳しい状況になっています。例年の「異常気象」による収穫の不安定さ、里山の荒廃による害獣の増殖と食害、その対策への多大な投資など、農業をめぐる問題は尽きません。



「勤めに出た方がラク」と思う農業後継者が多いのと「敢えては継がせない」先代が多いのも現状です。そんな中、松永農園三代目として子ども(息子晶雄(あきお)さん、娘の如美(なおみ)さん)が後継することになった事は大きな喜びです。今後も末永く、相互に支え合える関係を築いていきたいと思います。応援を宜しくお願いします。

11月3回注文番号8 「松永さんのレモン」 400g 特価 443円(税込)

コラム～輸入・国内の残留農薬の課題～

日本におけるレモン栽培の歴史は古く、1873年に熱海に来た外国人が種を庭先にまいたのが始まりとされています。その後、和歌山、広島に伝わり、西日本や静岡の柑橘産地で多く栽培されました。ところが、輸入の自由化により、安い海外産レモンが押し寄せ国産は激減。現在、国内に出回っているレモンのおよそ**9割以上が、アメリカやチリから船便で約1カ月ほどかけて日本に輸出されてます。**

輸送中に「カビ」が生えれば価値が無くなってしまいますので、**収穫後、船に積む前に防かび剤が使用されます。これが「ポストハーベスト」**です。レモンなどの柑橘に使われる防かび剤は、イマザリル、TBZ、アゾキシストロビンなどで、発がんのきっかけになる恐れがあるといわれています。食品衛生法上もこれらの農薬を食品添加物扱いとし、使用した果物を販売する場合、表示が義務付けられています。

また、国産の農産物でも残留農薬について、消費者が知る事はほとんどありません。厚生労働省は、国産農産物の残留農薬検査について指針を出し「国内に流通する食品等の監視指導は、基本的に都道府県等が実施」とし、その検査を担うのが保健所です。しかし、保健所にとって残留農薬検査は、食中毒や食品表示、食肉の衛生管理など多岐にわたる業務の一部です。保健所は1993年度の848か所から2020年には469か所へ約半数になり、職員数も減らされているのが現状です。さらに、現在新型コロナウイルス対応で業務がひっ迫し、保健所によっては残留農薬検査を大幅に削減しているところもあります。

～残留農薬検査の公表方法に問題あり～

残留農薬検査の公表の仕方も課題があります。残留農薬検査の結果は各自治体のHPに掲載されます。しかし、掲載される情報は食品表示法に基づく「違反件数ゼロ」など違反があったか否かだけの自治体が殆どです。日本の農薬残留基準は、海外の農薬使用実態に合わせた極めて緩い基準であるだけに、基準値内であっても農薬残留の数値は公表すべきだと考えます。

※「食べもの通信」2022年4月号より参照

第119回 脱原発と暮らし見直し委員会 報告

2022年10月19日(水) Web会議 14時～15時 組合員8人参加。

Zoomを利用し、Web会議で開催しました。セシウム測定値、東海第二原発差止訴訟などについて情報交換しました。

- 野生のきのこは1000Bq以上となっているものもあり注意が必要です。測って確認しましょう。測定値10年のまとめも進めています。
- 東海第二原発差止訴訟の東京高裁での控訴審、第1回口頭弁論が来年1月31日になりました。また、前任の裁判長が定年退官になり新たな裁判長が先月決定しました。1審の結果を覆されることなくさらに前進させたいと考えていますので私たちも応援します。
- 東海第二原発の再稼働に向けた工事は2024年に終了予定です。訴訟団では、差止訴訟の結果に関わらず再稼働させないため仮処分の申し立ても検討中です。

★次回は、2022年12/14(水)14時～15時Web会議の予定です。Web会議には生協からも参加できます。年内は次回が最後です。

委員会はどなたでも自由に参加できます。

参加希望の場合は常総生協HPの「[組合員専用お問い合わせ](#)」フォームから事前にご連絡ください。

小さな上映会便り 2022年11月（脱原発と暮らし見直し委員会）

世界情勢も激動の中、DVDを観て子供たちの未来について考えたいものです。皆さまの表現はできるだけ尊重しましたが、紙面の都合上、短くさせていただきます。ご了承ください。

No	題名	観た組合員さんからの感想文
43	シン・ゴジラ	娘（22歳）と見ました。政治、憲法、危機管理、放射能、国際関係、すべてにおいて考えさせられる作品でした。
49	放射能症候群Ⅱ	当時を思い出しました。子どもへの影響を心配して、マスクや放射能の計測、土壌の撤去、食品選びなど…。今一度胸に刻みます。
51	フードインク	なかなか貴重ないい物を見せてもらった。自分の健康・命は自分で守る賢い消費者にならないかと思った。大物政治家クリントン等が消費者側でなく会社側なのに驚くと同時に、どちら側寄りか冷めた目で見える必要を感じた。大企業は結果に責任を持たない、もうければいいだけ。
53	未来の食卓	学校給食のオーガニック化を通し、地域の変化していく様子がよく分かりました。まず熱い志の大切さを理解しました。
54	自然と共存する農のカタチ	害虫には必ず天敵がいることがよく分かりました。農薬を使わなくても自然のままで野菜が育つことを理解できました。
55	土の讃歌	美しく栄養価の高い野菜は（果物も）健康な土から生産されることを再確認できたDVDでした。堆肥を使った土がふかふかでミミズも元気に育っている本物の土を孫・子供たちに触れさせたいです。 数年前に知り合いの農家さん（我孫子）が三重県へ堆肥作りの勉強に行くとなりました。その頃各所で「土」の重要性の声を聞くようになり「土の讃歌」からのメッセージと強く共鳴した結果が行動へ！ 子どもと2人で観ました。オーガニックな食生活は日本だと「人間の健康に」よいという視点が多いように感じますが、それは「土の健康」によい、ひいては「地球の健康」によいということを実感させられました。『土を育てる』（ゲイブ・ブラウン著）の邦訳刊行直後で、同書を読んでいる最中だったこともあり、農業の見方が変わりました。
56	赤とんぼがいない秋	そう言えば「トンボ見てないな」と気づき、DVDを見せていただきました。農薬・科学物質 etc.良い物ではないという認識はあっても、日々の生活の中では薄れていき、又完全に除去して生きていく事のできないもどかしさを感じます。でも何故日本は農薬などに対する使用基準が甘いのでしょうか。又改善されていかない理由には何があるのでしょうか？
59	あまくない砂糖の話	砂糖!!深い食材です。ビジネスと健康、知識、バランスそしてアップデート必須（カロリー計算はフルイ）よき映画として楽しく学びました！ 「砂糖を摂りすぎはよくない」ということは判っていましたが、具体的にどんな食生活が実際に実験の過程をみて、恐ろしい状況ということが理解できました。
72	誰も知らない基地のこと	基地問題の現実を知り、改めて考えさせられました。今のウクライナでの戦争も私たちの知らないところで、米国がからんでいるような気がしてきました。沖縄の基地問題も私たち日本人が1人1人真剣に考えていかなければならないと思いました。
73	戦争のつくり方	母・私・息子（中1）の3人で見ました。息子が最後に「誰が憲法を変えようとしているの？」と、尋ねました。さあ、誰でしょう？ ウクライナがこのようになってしまった今、他人事ではなさそうです。 12年も前に作られた作品なのに、今、現在、世の中で起こっていることとまったく同じ...びっくりしました。ほんとに怖い世の中になってきました。貸していただきありがとうございます。短い作品ですがとてもよく出来ていると思います。
78	孫崎享 講演記録「東アジア情勢を語る」	日米の関係や条約のことなど日本人なのに知らないことばかりでした。孫崎さんが根拠をもって、日本は武力でなく平和外交で、と言っていたのが印象的でした。最近TVでウクライナや台湾の危機の報道があり、なんとなく改憲の方向にもっていかようとしているように感じてしまいます。自民党が改憲したいのは9条だけでなく、97条（基本的人権の尊重）削除もあるので心配です。

★ DVD貸出申込は注文用紙意見欄orホームページ上の[組合員問い合わせフォーム](#)にて、ナンバーとDVD名等を記入してお申込み下さい。（最新の「小さな上映会」DVD貸出リスト）を今週配布しています。